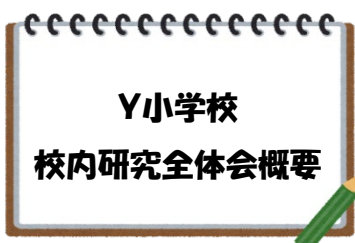


校内研究活性化プロジェクト研究通信

第9号 令和5年(2023年)10月10日発行

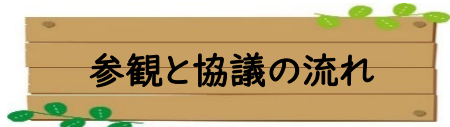
さわやかな風が吹き、何をするにも気持ちのよい季節となりました。みなさまにおかれましては、行事等で多忙な中、スポーツの秋、読書の秋などそれぞれに息抜きをしながら、日々の教育活動に邁進されていることと思います。プロ研通信第9号では、9月20日(水)に開催されましたY小学校の校内研究会の様子をお伝えします。

今回のY小学校での校内研究会を参観させていただくにあたり、A先生と校内研究主任にインタビューさせていただきました。研究授業と研究協議を通して自身の課題について学ばれた様子をお伝えします。



Y小学校 研究主題
課題に向かい、他者と交流する中で、自分の考えを再構築しようとする子どもを目指して

注目ポイント
・インタビューをした二人の学びのつながり



- 校内研究会の流れ**
1. 授業者・学年より
 2. グループ協議Ⅰ
 3. 全体交流
 4. グループ協議Ⅱ
 5. 研究会振り返り

今回、Y小学校の校内研究会では、肢体不自由特別支援学級と自閉症・情緒障害特別支援学級のうち、校内研究主任から予め示されたクラスを参観しました。グループ協議は、「研究主題のために講じた手立てに対して子どもの変容は見られたか」「自分たちのチームで今後生かせそうなこと、9月の実践について」という二つのテーマで2回に分けて行われました。協議のメンバーは、夏休みのときと同じ研究グループで七つに分かれて行われました。異なるクラスを参観したメンバーが集まって行われた協議ですが、すでに課題が共有できているため、学びが深まる協議ができていました。研究会の最後に各自が振り返る時間が5分間取られていました。どの先生も集中して自己分析シート(プロ研で紹介した授業アップデートシートをY小学校用にアレンジしたもの)を記入されている姿が印象的でした。

研究主題を達成するために各クラスで講じる手立て

	相手に思いや考えを正確に伝えるための手立て	相手の思いや考えを読み取るための手立て
肢体不自由 特別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に「くふうしたところは○○です」とカードに記入 ・「いいね」カード ・デジタルでデザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターを指し示すなどして話している内容と、意図が一致するよう支援
自閉症・情緒障害 特別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ・課題についての視覚支援 ・事前指導の時間の確保 ・Jam Board(Google社が提供するオンラインで使用できるホワイトボード)(以下、ジャムボードとする。)の活用 ・意思表示カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャムボードの活用 ・話し合い活動のよさの理解

A先生へのインタビュー

<質問①> 今日参観されたことと事後の研究会で学ばれたことを教えてください。

私が参観したのは自閉症・情緒障害学級で、所属しているグループのテーマである“交流が活発になるためにどういうことができるか”という視点で見えていました。授業者は、「全体で意見を出しつつ、思っていることは伝え合える時間になるように」という意図で授業をされていたのかなと感じました。

子どもたちの様子を見てみると、自閉症・情緒障害学級ということもあり、緊張してなかなか意見を言うのが難しい様子が見られました。参観者がいなかったら、また違う様子が見られたのかなと思います。今日見た子どもたちの姿で考えるなら、なかなか自分の思いを伝えることが苦手な子どもからすると交流の場で自分の思いを伝えるのは本当に難しいことなんだなというのを改めて感じました。自分の学級ではどういうことができるのかなってすごく考えさせられました。

今日の授業では、自分の思いを伝えることが苦手な子どもに事前に意見を書かせていたので、教師が代わりに伝えてあげるといったサポートをされていました。私の理想としては、教師が入らなくても、子ども達で話せたらいいなというのを目指していました。でも、それができるようにしようと思ったらどうしたらよかったのかなって思います。今回授業者はいろんな手立てを考えておられたんですが、交流が盛り上がるかっていう点で考えると課題が見られたので、改めて交流することの難しさを感じました。



<質問②> 今日の学びから、これからの授業で生かしたいことを教えてください。

改めて大事だなと思ったことが一つありました。それは、とにかく思ったことを話すだけでもいいからペア活動を取り入れるとか、グループで気楽に話せるような場をつくるとか、話す場をこちらから仕向けて回数をこなしていくことです。「そのときだけ頑張る」じゃなくて、日常でそういうことをしているからちょっとずつ力が付いていくものなのかなと。

実は、10月11日(水)の研究授業に向けて授業を考えるうえで、夏休みから学年で、「なんでもいから話す機会を多く作ることは大事だな」と話していました。自分の学級の子も達は研究授業当日、すごく緊張するんじゃないかなと思います。保護者参観でもそうですが、普段よく話す子が急に静かになったり、いつも意見を言っている子が、「これでいいのかな」と考えてしまってなかなか手が挙げられなかったりという状況はよく見ます。だから、まずは普段から話すとか、伝えるとか、聞くとかいうことに慣れさせることが大事だと思いました。

<質問③> 今日、A先生のグループで行われた協議の中で、一人の教員から「ジャムボードで交流すると意見を言わなくても交流ができる。だから、発言することだけが交流ではないんだ」という気づきが発信されました。A先生としては、緊張した子どもへの対処法の一つとしてジャムボードを活用することも考えられますか？

確かに、「言葉で伝えることが全てではない」とは思っています。ただ、私自身の理想が高いのかも知れませんが、ジャムボードを見れば相手の気持ちが分かるのはメリットでもありデメリットでもあるなと思います。「ほら、見たらわかるでしょ」という感じで、そこに頼ってしまうのは…。私は「言葉で伝える」「発信する」ことに意味があると思っています。だから、自分の思いを伝えることが苦手な子どもが第1ステップとして活用するのはありだと思いますが、できたら伝え合うということ大切にしていきたいというのが私の思いです。でも、それが難しい子はうちのクラスにも何人かいるので、今度の公開授業では、目に見える形で自分の意見が伝えられたり、友達の意見がわかったりする手立てを考えているところです。できる範囲で頑張れるように、いろんなタイプの子に合った手立てを少しでも多く用意できたらいいなと思っています。

校内研究主任へのインタビュー



<質問①> 今日の研究会を終えた感想を教えてください。

研究会の度に、いろいろな取組をやってみています。今回であれば、たまたま二つの学級で授業を公開されるということだったので参観グループも分けてみました。その分け方も、夏のチームを生かして、夏に目標を立てた同じチームで協議をすることにしました。今回なぜこのような研究会の設定にしたかという、自分たちのグループの視点で参観できるということと、異なる学級で見合ったものを持ち寄って研究会をすることで手立てや考えを広げられるとよいと考えたからです。自分は見ることができませんでしたが、もう一つの学級ではそういう手立てをしていたんだという学びがあるかなど。研究テーマは一緒なので、提案される内容は似通っているというか、違うけど似ているというか。そこで得られる学びが研究会であつたらいいなと思って挑戦してみました。

今年1年本当は、ものすごく安定した研究会にしようと思っていました。誰でもできる研究主任を目指してすごくシンプルにしていこうと思っていました。なぜかという、昨年まで校内研究のサブでいたときから、100周年とか、いろいろ大きなものがあって、校内研を負担に感じられる方がすごく多いのかもしれないと思っていましたから。ただ、今は、参加してくださる先生方にとって、校内研究に身を任せていたらいつの間にか「学び」が変わっていきうという風にできたらいいなと思って進めている感じです。

<質問②> 今日ICTのグループが実践されていた参観の方法は、Y小学校では今までからやっておられた方法ですか？

肢体不自由学級のB先生が、今回子どもたちにICT機器を使ってポスターを作成させる取組をされていました。それもジャムボードとかのツールではなく、他の教育サイトからのアプリを使ってされていました。それくらいICTに長けたB先生が「指導案にコメント機能があるので、そこにどんどん書き込んでいってもらえたら嬉しい」と仰っていたことが始まりです。ただ、仰っていたのが先週末で、職員全員に周知するのは難しく、「今回はICTのグループの先生に限定するのはどうですか」と伝えると、「じゃあ一回試しにやってみよう」というので今回やってもらいました。

今回ICTグループの代表として全体交流の時にまとめを発表されたC先生と、研究会の後に話をしていると、「あれよかった」と仰っていました。その理由について、「ベテランの先生は研究会を見ている視点・参観の視点がすごく定まっていると思う。『ここが見どころや』とか『今子どもがこういう反応した。これ、今の指導者の声掛けによるものや。ここから変わっていくで、きっと』という風に見るところがわかっている先生もいらっしゃる。でも、どこを見たらよいか、何がよかったのか、いまいち具体的にわからない先生も絶対にいらっしゃると思う。それがタイムリーに共有できるのがよかった」と仰っていました。その意見に私はすごく納得できました。「タイムリーにコメントが出てくるので、『あ、そこを見ればよかったんや』と授業参観の仕方についても学べると思う」と仰っていたのも大きなメリットだと思いました。さらにもう一つのメリットが、授業公開中に、自分のグループの先生方の見方を共有できているので、研究会の時間が短くて済むことです。協議の時間が始まると同時に、「あ、こう思っておられましたよね」とか「ここ一緒でしたね」と協議を始めることができます。さらに、「ここ、なんでそう思われたのですか」など、後で聞こうと思うことを整理したうえで研究会に参加できるのもメリットだと思います。

この取組については、もう少し他の先生にも感想を聞きたいと思っていますが、次回の校内研究会でもやってみようと考えています。早速、B先生に声をかけてみたところ、コメントの残し方というかGoogle Chromeの操作の仕方をもう作ってくださったみたいで、その資料を使わせてもらってみなさんに共有してみようと思っています。できたら全員が使ったうえで第6回のプロ研を迎えたかったんですが、ICTが苦手と仰っていた先生が今日も使いこなしておられたし他の先生方もいけるかなと思うので、研究推進委員会で検討してみようと思っています。

今までも、いろんな交流方法を試しましたが、やっぱり時間の問題って、プロ研でもみなさん悩まれていたことでなかなか解決が難しいと思います。先に付箋に成果と課題を書いておいて、後で持ち寄ってしゃべるという方法でも、初めに「私はこう思います」と共有してからでないとなかなか協議を始めることができませんでしたが、ICTを使うとそれが解決するかもしれないと思っています。

限られた時間を有効に使うということでは、今回の事後研究会の構成についても悩みました。今日は授業の交流をした後、全体交流を入れてから、グループの視点でしゃべるという構成にしました。前半は本時のこと、後半は自分たちの今後についてとちゃんと整理した方が話し合いやすいかなと思ったんです。ただ、自分がしゃべってみると、1回目の話し合いの中で、グループテーマの視点で話していたので、わざわざ協議の時間を分けなくてもよいのかもしれないなど。みなさんもともと参観の時から、そのグループの視点で見ておられるはずだとも思いました。

<質問③> 今日の学びを今後どのように生かしていこうと考えていますか？

今の方向性で言うと、ICTを用いて参観するのを取り入れてみようかなと思っています。まだ許可は得てないのと、いろんな先生にお聞きしてからですけど、それと、交流の時間を有効に使うために、連続した話し合いの時間を設けて、その中身を章立てして、共有の時間、それぞれの成果と課題をまとめる時間、自分たちの視点でしゃべる時間みたいな感じにしようと考えています。そして、リーダーさんがそれぞれの話を行き来できるように話し合いをリードして下さったらよいかなと思っています。

あとは、授業を見に行っで“よいところ”を見つける参観Weekを実施するのはまだ難しいので、今は私がたくさん行って、板書を撮ったり、よいところを見つけたりして通信にしています。「これは誰の板書でしょう」ってクイズにして当たったらシールをあげるという企画もしたんですが、一人しかもらいに来てくれなかったの、次の号では、「もっともらいにきてください」って書くつもりです。なんとか、広がってくれたらよいと思うので、校長先生にも「見に行ってくださいましたか？」「今週は誰の授業がよかったですか？」と声をかけてみようと思います。それと、通信に「校長先生の一押し」っていうコーナーも作ってみようと思います。

Y小学校の校内研究会の参観を終えて、研究員の思い

今回は、研究授業と事後研究会を参観させていただいたうえで、事後インタビューも実施させていただきました。参観するだけでも先生方の学びに対する熱意や子どもたちへの思いの熱さに触れられるのですが、インタビューすることで、学びのつながりや目指す姿が具体的に見え、「学んで楽しい！このワクワクを子どもにも！」というとても前向きな気持ちになりました。それぞれの学校でも、校内研究を通してワクワクするような「学び」を一緒に実現していきましょう。

